

グループインタビュー等の開催結果について

1. 開催目的

第7次総合計画の後期基本計画の策定に向け、各分野で活動されている団体や若者等の方々から市の課題や今後必要な取組に関する意見を集め、計画に反映する。

2. 実施時期

令和8年6月から8月まで

3. 対象・参加団体等

(1)グループインタビュー（五十音順）（10 団体）

- ・ 外国人通訳ボランティア
- ・ Kinaiya プロジェクト
- ・ CAP・じょうえつ
- ・ 桜プロジェクトJ
- ・ 上越ジュニア音楽クラブ
- ・ 上越地域農業者グループひかり
- ・ 関根学園高等学校生徒会
- ・ 高田高等学校生徒会
- ・ 中郷区さとまる学校
- ・ よるマルシェ実行委員会

(2)まち・ひと・しごと創生推進協議会 意見交換会（五十音順）（13 団体）

- ・ 一般社団法人山と海の環り舎
- ・ えちごトキめき鉄道株式会社
- ・ NPO 法人くびきのお宝のこす会
- ・ NPO 法人ふぁみりり
- ・ NPO 法人マミーズネット
- ・ NPO 法人上越スポーツラボ DEW
- ・ 株式会社北信越地域資源研究所
- ・ 上越助産師会
- ・ 上越 5e 協議会
- ・ 上越ワーキングネットワーク
- ・ 上越若者みらい会議
- ・ 第四北越銀行株式会社
- ・ 東京海上日動火災保険株式会社



グループインタビューの様子



意見交換会の様子

主な意見

健康福祉分野

【障害者支援】

- ・障害のある方が就労する場合に、通勤に係る交通の課題があり、障害のある人を地域全体で支え合う環境づくりが必要である。（上越ワーキングネットワーク）
- ・農福連携の取組は、職員のマンパワーの関係から、追加の対応が難しい状況であることが課題である。（ 〃 ）
- ・障害のある方が相談できる場所がわかりやすいことが必要である。（株式会社北信越地域資源研究所）

【子育て支援】

- ・子どもが遊べる施設が少ないと感じる。（上越助産師会）
- ・放課後児童クラブが日・祝日や校区外は利用ができず不便を感じる。（NPO 法人ふぁみりり）
- ・家庭の状況に応じた支援の充実や子育て世代に届く情報提供の仕方を検討する必要がある。（NPO 法人マミーズネット）
- ・子どもへの虐待を防ぐため、親に寄り添った取組が必要である。（CAP・じょうえつ）

産業・経済分野、農林水産分野

【産業・観光の振興】

- ・事業承継ができないことを理由とした倒産が増えてくると感じており、多業種・多分野の関係者が交流し、新たな連携や事業につながる機会の創出が必要である。（株式会社北信越地域資源研究所）
- ・地元企業の認知度向上が課題と感じる。（一般社団法人山と海の環り舎）
- ・観光振興に向けた取組の方向性が分かりにくく、観光客の誘致促進に向けた取組の強化が必要である。（ 〃 ）
- ・外国人住民が地域の観光資源や魅力に触れ、その魅力を発信できる機会の充実が必要である。（外国人通訳ボランティア）

【農業の振興】

- ・上越野菜等の地場産農産物について、市内外への PR を強化する必要がある。（上越地域農業者グループひかり）
- ・新規就農者の確保・定着に向けた支援の充実が必要である。（ 〃 ）
- ・子どもたちが地場産農産物を食べる機会を増やし、地産地消を推進する取組が必要である。（ 〃 ）

教育分野

【教育の充実】

- ・ 小学校の給食費無償化の対象範囲について、市立と国立で支援に差があることが課題である。（NPO 法人ふぁみりり）
- ・ キャリア教育は、地元企業を知る機会になっているので、積極的に取り組んでもらいたい。（東京海上日動火災保険株式会社）
- ・ 子どもたちへのキャリア教育を官民で進めていく必要がある。（上越 5e 協議会）
- ・ 子どもたちに対して、人権やいじめ・虐待を防ぐ教育をあまり実施できていないと感じるため、人権教育を行い、人権意識を育てる必要がある。（CAP・じょうえつ）
- ・ 小学校での講座等を座学で終わらず、実際の活動に結びつける取組が必要である。（桜プロジェクト J）

【スポーツ・文化の推進】

- ・ 部活動の地域クラブ活動への移行が進められ、子どもたちの活動の機会が減っていることが課題である。（NPO 法人上越スポーツラボ DEW、上越ジュニア音楽クラブ）
- ・ 地域クラブの指導者や活動場所、活動資金の確保が課題となっていることから、地域クラブと子ども・保護者とのマッチングや既存施設の有効活用など、各クラブの特性を踏まえた活動環境の整備が必要である。（上越ジュニア音楽クラブ）
- ・ 市内にいる指導者と地域クラブのマッチングを行う必要がある。（NPO 法人上越スポーツラボ DEW）

都市整備・生活基盤分野

【公共交通】

- ・ 通学に利用できる公共交通が少なく、親の送迎が必要となっており、公共交通の利便性向上が必要である。（関根学園高等学校生徒会、高田高等学校生徒会、中郷区さとまる学校）
- ・ 人口減少に伴い、公共交通サービスの維持が課題となっている。（えちごトキめき鉄道）
- ・ 高齢者の移動手段の確保を課題に感じている。（中郷区さとまる学校、NPO 法人マミーズネット）

【居住空間の確保】

- ・ 子どもの通学路に空き家があり、積雪時の安全性に不安を感じる。（NPO 法人ふぁみりり）
- ・ 空き家を利活用する取組が必要である。（第四北越銀行株式会社）

【商店街の利便性向上】

- ・ 商店街に公衆トイレや無料の駐車場を設置し、利用者の利便性を高める取組や親子が商店街に訪れやすくなるように、商店街に子どもの遊べる場所を整備が必要である。（よるマルシェ実行委員会）

【市政運営】

- ・市の魅力や地域資源の発信の強化が必要である。（高田高等学校生徒会、えちごトキめき鉄道株式会社、桜プロジェクト J）
- ・市の取組が上手く市民に伝わっていないと感じる。（上越若者みらい会議）
- ・市が開催するイベント等は堅く感じられ、若者が参加しづらい。（Kinaiya プロジェクト）
- ・若者の遊べる場所が少ないこと。また、遊べる場所はあるが、点在していること。（関根学園高等学校生徒会、高田高等学校生徒会）
- ・通学に係る経済的負担の軽減に向けた支援の充実が必要である。（関根学園高等学校生徒会）

【地域コミュニティ】

- ・少子高齢化により、文化の継承が出来なくなることが心配。（NPO 法人くびきのお宝のこす会、高田高等学校生徒会）
- ・人口が減少する中で、地域コミュニティの維持や団体活動の継続に不安を感じる。（上越若者みらい会議、中郷区さとまる学校）
- ・定年延長や高齢化により、地域の活動に関われない人が増え、地域活動の後継者不足の問題がある。（NPO 法人くびきのお宝のこす会、桜プロジェクト J）
- ・人口減少に伴い、町内会活動や地域運営の負担が増加していることが課題である。（上越若者みらい会議、えちごトキめき鉄道株式会社）
- ・外国人住民が地域活動や町内会行事に参加しにくい状況があることが課題である。（外国人通訳ボランティア）
- ・中高生が放課後等に気軽に集い、交流できる居場所の充実が必要である。（CAP・じょうえつ）
- ・地域の伝統や文化を次世代へ継承する取組が必要である。（第四北越銀行株式会社）

【市民参画のまちづくり】

- ・若者たちが地域のイベントを自分たちで考え、運営がしやすい環境を整えるとともに、若い世代によるまちづくり活動を支援する取組の充実が必要である。（Kinaiya プロジェクト）
- ・市民団体がいきいきと活動できる体制づくりが必要である。（中郷区さとまる学校）
- ・まちづくりに関わる団体同士が互いの活動を知り、連携できる機会の充実が必要である。（よるマルシェ実行委員会）
- ・商店街と高校生など若い世代が連携し、地域の活性化につながる取組が必要である。（高田高等学校生徒会）

【UIJ ターンの促進】

- ・進学や就職で転出した人が地元へ戻り、暮らし続けられる環境の整備が必要である。（上越助産師会）

【多文化共生の推進】

- ・外国人は、健康とメンタルについて相談できる人（場所）が少なく、抱え込んでしまう人が多いため、会社以外に相談できる窓口があるとよい。（外国人通訳ボランティア）
- ・外国人は、正確な情報を手に入れるのが難しいため、外国人に対してどのように情報発信するかが課題である。（ 〃 ）
- ・外国人材の受入れを希望する企業において、受入環境の整備が課題となっており、地域の外国人材が、外国人を雇いたい企業を支援できる環境づくりが必要である。（ 〃 ）